

■ 高校ラグビー

全国高校ラグビー大会は8日に決勝戦を争う。2年連続3回目の優勝を狙う東福岡(福岡)と、初優勝を目指す桐蔭学園(神奈川)の対決は2年連続となる。

東福岡は2009年度の春の全国選抜大会から10年度の選抜大会まで3大会連続優勝しており、2年連続の春と正月の連覇がかかっている。

ともに超高校級の個人能力に富んだ競技者が多く、それを結集した組織的な攻防による激しい競い合いが予想される。

90回目を迎えた記念大会は4県で1代表が加えられる、都道府県予選を勝ち抜いた過去最多の55代表が出場。半世紀以上も

前に優勝争いの頂点を競っていた慶応(神奈川)、福岡(福岡)の古豪も復活した。

生駒降ろしの寒風が吹き抜ける東大阪市の近鉄花園ラグビー場で、年越しの王座争い。懸命に走ってパスをつなぎ、激しくタックルする勇敢な高校生の一たむきな姿は、新鮮な驚きと頼もしさを感じさせてきた。

ベストエイジは26歳から28歳くらいと言われるラグビー。8年後の2019年にワールドカップ(W杯)を開催する日本にとって、世界最高峰の舞台を担う代表は、この花園から確実に飛翔する。9月にニューシールドで開催される第7回W杯の年頭を飾る期待の大会だ。

心をつつプレーばかりでなく、一瞬にして流れを逆転させる攻撃的防御や一体の組織的攻撃など技術的な向上も実感させる。しかも個人能力に優れた逸材が輩出し、競技関係者やファンをワクワクさせている。高校ラグビーは、勝利至上主義にとらわれず、おおらかに競技者を育てることが主流になりつつある。

学校環境や指導条件の劣悪化で競技人口は減少傾向にあるが、全国のラグメンによる自主的な新しい普及活動や総合的指導が始まっており、女性競技者の育成にも取り組んでいる。

課題はトップ競技者への継続的指導である。ほとんどが大学進学でさら

に高度な指導を受けることになるが、近年、大学生の自覚に欠ける不祥事が相次いだ。人間教育の不足が指摘されている。

サッカーのようなリーグを頂点としたクラブによる育成が望めないから、大学体育会に依存するのが日本ラグビーの特徴である。それだけに大学関係者が自校の勝利にとどまらず、日本ラグビーの発展を意識した指導に努力しなければ、世界に通用する競技者は生み出せない。

人間的な成長が、的確なプレー選択や状況判断を磨くことにつながる。力より、きずなを尊ぶ心が高校ラグビーを貫いてきたことを忘れてはならない。

W杯担う90回目の花園

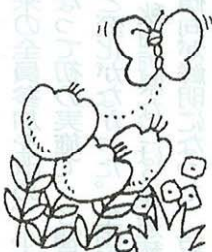
No. 17
通巻 NO.21
平成 23年1月
文責 望月大和
甲府市和戸町688-5
TEL 055・237・9770



かえでだより
ラグビースクール

たいせつなものは
みなただ

河野達(詩人)作



ただ
もっともたいせつなものは
みなただ
太陽の光
野や山の緑
雨や川の水
朝夕のあいさつ
神への祈り
そして母の愛

たいせつなものほど、おかねがかかる、高ねの花だと、わたしは思いこんでいる。河野さんは、反対に、いちばんたいせつなものは、本当は「ただ」なのだと言う。そして、この詩を読むと、ほんとにそうだ、あらためてさくらされる。たしかに、ちょっと考えてみれば、わかることだ。日の光、あまい空気、澄んだ空、野山の緑、静かな夜、星々のまたたき、青い水――これほどわたしたちを豊かにするものはない。しかしわたしたちは、「豊かさ」を求めて、空をにがらせ、緑をなくし、やかましい夜をつくってしまったのではないか。いや、何よりも、人間の心をあたたく満たす朝夕のあいさつや、思いやりといったわりのことばや、神仏の祈りや、そして親子、夫婦、兄弟、友人の情など、自然への感謝だけでなく、共存する人間への愛の心をも、しだいになくしてきているのではないか。わたし自身をふくめて、現代人は、「もっともたいせつなものはみなただ」ということを忘れていて、たいせつなものは、おかねで買うのだと思いつこんでいる。そしてたいせつなものをおかねで買うとすればするほど、おかねでは買えない、いや、ただで手に入られる「もっともたいせつなもの」をなくしている。迷い、争い、傷つけあっている。一見、合理的に見える現代人ほど、実は、まことに不合理きわまる生き方に、走っているのかもしれない。 「もっともたいせつなものはみなただ」という真実を、そしてそれへの感謝を、わたしたち現代人は忘れてしまったのではないか。

数年前、真夏の菅平のグラウンドで汗まみれになりながらボールを追っている大学ラグビーの合宿を見学をした。しかし息が迫る表情で練習に取り組んでいるエネルギーを感じることがなかった。心の底からラグビーを楽しんでいる姿を見い出すことは出来なかった。ただ指導者の所まじともつかぬ怒声が高原に響いていた。なぜか指導者の意図していることが選手に伝わっていない(言葉のからまわり)②ラグビーという大枠を切り離してパス練習がパスの練習になっている(ラグビー本来が持つ楽しさが失われている)③指導者から練習をやらされている(自から考えることの停止)この3点を夜のミーティングで話しをさせてもらった。そこで「かえで」の皆さんは……。選手・父母・コーチみなで考えましょう。